

英国開催カンファレンス Open Banking Expo2025 参加報告

2025 年 10 月 21 日および 10 月 22 日に英国にてカンファレンス「Open Banking Expo2025」が開催され、当センターも参加した。参加により得た情報について紹介する。

1. カンファレンス概要

(1) 名称: Open Banking Expo 2025 (UK&EUROPE)

(2) 日時: 2025 年 10 月 21 日 (火) ~ 2025 年 10 月 22 日 (水)

(3) 主催: Borough Bench Media Ltd.

(オープンバンキングおよびオープンファイナンスに特化した国際的なカンファレンス主催会社)

(4) 参加: 金融当局関係者、銀行、保険、クレジットカード、FinTech 企業、大学 等

2. 『Open Banking Expo』について

『Open Banking Expo』は、オープンバンキングやオープンファイナンスに関して、最新の技術やトレンド、動向について把握することができる場として、2018 年から毎年開催されている。金融機関、規制当局、IT ベンダー、業界の専門家、アナリスト等、業界の最新動向を把握する機会として提供されている。

リーディングカンパニーや専門家による講演、最新のイノベーション紹介、業界ディベート(パネルディスカッション)等が行われるほか、参加企業の展示ブースが多数設けられていた。

今年度は米国、カナダ、英国の 3 カ所にて開催された。そのうち、英国開催が最も大規模に行われた。約 60 社、約 180 名がスピーカーとして参加し、2 日間で約 1,600 名の来場があった。

3. カンファレンス開催内容

会場は、セッション(パネルディスカッション形式、講演形式、ピッチ形式)のほか、展示ブースやネットワーキングスペース等が設置されていた。

2日間で全 71 セッションが行われ、各セッションでは、英国のオープンバンキングにおける現在の状況、課題、今後の展望等について語られていた。

聴講したセッションの話題について紹介する。

聴講したセッションの話題

オープンバンキングの進化と社会的インパクト

- ・多くのセッションで、オープンバンキングは API の普及、ユーザー数の増加、金融機関と FinTech 企業の連携強化といった基盤整備の段階から、実際に広く利活用をすることで、社会的にも経済的にもインパクトを実現するフェーズへ進むべきだという認識が共有されていた。

多様なステークホルダーの協調

- ・金融機関、FinTech 企業、規制当局、消費者、マーチャントなど、エコシステム全体での協調と連携の重要性が強調された。単独のプレイヤーでは変革は起こせず、共通の目標や技術基準に基づく連携が不可欠とされていた。

ユーザー体験・金融包摂・持続可能性

- ・ユーザー体験の質向上、金融包摂（インクルージョン）、持続可能性、消費者保護など、社会的価値の創出が重要なテーマとして議論されていた。

規制・標準化の課題

- ・英国、EU、米国等それぞれで規制内容が異なる点、API が CMA9（英国大手 9 銀行）では共通仕様であるものの、それ以外では API の標準化が進んでいない点や、国際的な相互運用性の確保が必要な点などが導入・普及の障壁として挙げられていた。スマートデータ法案や PSD3（EU が提案している決済に関する新規制）などの新しい規制枠組みの整備、標準化団体（OBL、Pay.UK など）の役割強化が提案されていた。

技術的課題とリソース不足

- ・レガシーシステム依存、API 性能・可用性のばらつき、スケーラブルな設計の難しさ、中小企業や地方銀行の技術・人的リソース不足が課題とされていた。クラウドファースト設計、AI 活用による自動化・効率化などが解決策として挙げられていた。

消費者の認知不足

- ・消費者に認知されていない点が課題とされていた。教育キャンペーン、明確な同意管理、透明性のあるデータ利用、分かりやすい UX 設計、金融リテラシー向上などが解決策として挙げられていた。

収益化・商業モデルの課題

- ・収益化モデルの未整備、カード決済と同等の消費者保護の不足等が課題とされていた。解決策として、プレミアム API(義務化された最低限の API に追加価値を付した有料API)の導入、リアルタイムデータ活用によるパーソナライズ、BNPL やサブスクリプションとの連携、収益モデルの見直しが挙げられていた。

オープンファイナンス・スマートデータへの拡張

- ・オープンバンキングからオープンファイナンス、スマートデータ経済への拡張が期待されていた。金融サービスだけでなく、保険、年金、通信、エネルギーなど多分野でのデータ活用によるサービス革新が展望されていた。

持続可能な金融システムの構築

- ・包摂的かつ信頼を損なわない UX 設計、金融リテラシー向上、グリーンファイナンスの推進など、持続可能な金融システムの構築が必要であるとされていた。

4. 所感等

今回のカンファレンスで、英国におけるオープンバンキングは規制主導により進められており、我が国と比べると法制度等の基盤整備の面ではかなり先進的であることを改めて確認できた。一方で議論の内容は技術や法制度に偏っていたことは否めず、消費者や小売店が「なぜ使うのか」といった利用者視点があまり反映されていないように感じられた。実際の議論においても進展を妨げる理由として「利用者の認知・リテラシー不足」といったように、課題が利用者に起因している旨がしばしば挙げられていたことも印象的であった。日本のオープン API に関する議論の場でも銀行間連携やセキュリティに重点が置かれることが多いが、利用者に直結する利便性等を改めて論じ、示すことが重要であると感じた。

英国の事例から学べることは、規制や標準化はもちろん重要なことではあるものの、エコシステム全体で利用者目線、利用者中心のサービス設計を徹底することである。そのうえで金融データ活用による新しい体験やコスト削減など、具体的な価値を明確化し、業界・事業者・行政が協働して認知を高めることが、日本のオープン API 施策にも進展をもたらすものと考えられる。

以 上